

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 11 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100421		
法人名	J T S株式会社		
事業所名	グループホーム 樹		
所在地	広島市安佐北区深川1丁目42-23 (電話) 082-842-1500		
自己評価作成日	平成24年9月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100421-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年10月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設は、田んぼや畑、山々の様子で四季折々の風景が楽しめる自然に囲まれた住宅街に立地しています。近隣にはスーパーもあり、散歩を兼ねて買い物に行かれる機会も多く、楽しみのひとつとなっています。施設内の中央に中庭を設け、バーベキューを楽しんだり、ミニ畑や豆柴犬の『ふく』も飼っています。家族や地域との繋がりを大切に、たくさんの笑顔溢れる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の最寄駅はJR芸備線の下深川駅である。施設周辺は畑や田園風景が広がる緑豊かなのどかさが残り近隣には大型スーパーがあり散歩や買い物などに便利な環境に位置している。建物は平屋建てで中庭には施設で飼っている柴犬が駆け回り、小さな家庭菜園があり利用者と共に季節の野菜作りやバーベキューを楽しみ和気あいあいと自宅で過ごせるような空間や環境作りを心掛けている。施設「樹たつき」のネーミングは大きな木の下で皆で笑顔が絶えない施設作りを目指している。又、地域の深川中学校より生徒の体験学習の受け入れや「樹」を地域交流の場として提供し婦人会、子供会等の交流に努めている。防火対策として消防署の指導を受け消防訓練を行うと共に大災害時を想定した地域との連携、及び相互協力体制が整っている。馴染みの地域で安心した暮らしを目指し、スタッフはいつも笑顔でやさしく寄り添ったケアを実施している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時、「認知症になっても望む生活」を勉強会で話し合い、理念に反映させ、玄関に張り出し、運営会議においても紹介させていただき、家族や地域の方々とも共有し実践に努めている。	法人理念「お互いのありがとうを大切に」を基に、職員で話し合って作成した事業所独自の理念「大切な家族と共に支え合い、思い出をいっぱい作りながら、笑顔で過ごす一日一日を大切にします。人間としての尊厳を守り、その人らしい生活を支援します」を掲げている。毎月の研修会で理念の振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、行事へ参加させて頂いたり、町内掃除や周辺散歩時、気軽に声を掛けて下さり、野菜を提供してもらったりと日常的な交流をさせていただいております。	法人代表は自治会役員をしている。地域清掃の草むしりや公民館での交流、ボランティアによる演奏会やフラダンス等、地域の方との交流の場として施設を提供している。又、利用者と日課である毎朝の近隣の散歩中に近所の方に挨拶をしたり子供たちと触れ合ったりして地域との関わりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議において認知症の理解や協力を呼びかけ、散歩や近隣スーパーの買い物時などで、実際に関わりながら理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎の会議では、利用状況や活動報告、今後の取組みなどを報告し、参加者から頂いた意見などは検討し、サービスに取り入れたり、改善に努めている。	会議は2ヶ月に1回水曜日に開催している。利用者、家族、自治会長、区役所職員、地域包括支援センター職員、地元企業者、消防署職員、事業所職員で組織されている。運営状況の報告や消防訓練の実施等討議し、出席者からの意見や提言を得てサービス向上に活かしている。また会議での詳細は議事録に残している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険やサービス内容についての疑問や不明な点を問い合わせたり、相談させていただいている。又、利用者や家族からの苦情や事故についても必要に応じて報告するよう心掛けている。	運営推進会議には毎回、行政職員の出席を得ている。日頃から相談や報告をし意見交換を行っている。又、苦情や事故報告等を通じて連携をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>勉強会にて具体的な拘束の内容や精神的な影響などを理解し、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、事業所内研修を実施して職員に徹底しており、身体拘束をしないケアに努めている。施設前には線路があるため安全性を考え施錠しているが、ボタンを押せば自由に出入りができる状況にしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会、事業所会議などにより学ぶ機会を持ち、利用者の日頃の様子や心身の状態をしっかりと観察、報告し合い、見過ごされる事がないよう防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度や社協の自立支援事業についての情報を収集し、研修などでより知識を養い、利用者や家族の状況に応じ相談、支援出来るよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書など、充分にご理解を頂いたうえで、署名捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱の設置をしたり、運営推進会議で意見や要望を伺い、事業所会議などで話し合っている。又、日頃より電話や面会などで家族との連絡を密にし、信頼関係を築けるよう努めている。</p>	<p>運営推進会議や面会時に家族に対し積極的に声をかけている。利用者一人一人に担当職員を決めており、毎月、便りを家族に送付し、日頃の状況を報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者と管理者は、各ユニットの話し合いに参加したり、個別アンケートや面談により意見を確認し、毎月の事業所会議において検討、改善を図っている。</p>	<p>月1回の事業所会議や、週1回のユニット会議で意見交換をしているほか、日常の会話やミーティングで何でも気軽に発言できる雰囲気づくりを心がけ実践している。リハビリマシーンの導入や、行事計画(おはぎ作り)等、職員からの提案があり実現している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>出来るだけ働きやすい環境に出来るように、実績や評価により、賞与などで評価させていただいている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修や内部研修を積極的に受講していただいている。又、ヘルパー2級を持っていない方の働きながら資格が取れる仕組みも整えている。地域密着サービスの実践者研修・管理者研修なども積極的に呼びかけて受講して頂いている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域の小規模ネットワーク会議や、包括支援センターの講習会など、地域の活動にも参加させて頂いている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前の面談により、生活環境や習慣などから出来るだけ多くの情報を収集、把握し、本人の状態に合わせながら要望を探っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に相談を受け、困っておられる事や不安に思っておられる事を、話しやすいように雰囲気にも配慮して何うようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族の思いを尊重し、認知症状や身体状況から、必要なサービスを検討している。状況によっては他事業所を進める事もある。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>食事作りや洗濯たみなど日常生活の中で、利用者が出来る事は一緒に行い、家庭的な雰囲気からお互いに助け合える関係作りを大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>事業所の理念としても掲げており、近況報告や相談、面会など、大切な家族の協力を得て、本人の笑顔が引き出せるような支援を心掛けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの方（地元の方や友人）の面会や、近隣の墓参り、行きつけの美容室への外出などにより、住み慣れた地域で暮らせる関係の継続に努めている。</p>	<p>家族と一緒に墓参りの送迎や、昔馴染みの美容室への外出支援、又、友人や知人の来訪時には、お茶を入れて歓迎し居室でゆっくり過ごして頂き、馴染みの関係継続に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の配膳の準備や、後片付けなど、利用者同士が声掛け合い、協力し合って洗い物などをして下さる。又、フロアでは、利用者同士や職員との交流を楽しんで頂けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談を受けたり、経過伺いなど、関係の継続に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント（センター方式）を用い、何気ない会話やしぐさの中から本人の思いを察したり、困難な場合は家族からの情報や職員間で話し合い本人本位の支援の把握に努めている。	アセスメントや、その人、その人の日常の会話や入浴や散歩など、リラックスしている時に思いや希望を聞いている。把握困難な方は、日々の様子を観察し、センター方式を用い記録し、会議の中で話し合うことで情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族と積極的にコミュニケーションを図り、馴染みの暮らし方や生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活や身体状況を観察しながら状態の把握に努めたり、毎日の申し送りの中で気づきを報告し合い、伝達ノートも用いて職員全員に周知させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>センター方式によるアセスメントにより本人、家族の意向を踏まえ、課題分析し、プランを作成し担当者会議において本人、家族や看護師などの関係者とともに検討している。又、1か月毎のモニタリングにて現状に即した計画の見直しをするよう努力している。</p>	<p>ユニット会議でアセスメントやモニタリングの資料を基に、担当職員で話し合い計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画は原則6ヶ月ごとに見直し実施状況を確認して評価している。利用者の心身の変化がある時は、その都度見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活状況やケアの実践を個別に記入している。毎日朝、夕の申し送り時に気づきを報告し合い、情報を共有している。又、必要に応じてミニカンファレンスを開き柔軟な対応を心掛けている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>常に本人、家族の状況、ニーズの把握に努め、より良い支援が出来るよう医療機関や他事業所に相談させて頂いている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に参加させて頂いたり、ボランティアの方の来園を楽しみにされている。又、趣味活動のボランティアや近隣スーパーへの買い物の楽しみや役割により生き生きとした生活を支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に本人や家族の希望により、かかりつけ医を選択して頂き、24時間体制で支援できるよう協力いただいている。協力医の往診は2週間に1度、眼科は2か月に1度、必要に応じて歯科の往診も行っている。</p>	<p>利用者、家族はかかりつけ医を選択する事ができる。定期的に2週間に1度の往診があり、健康管理を行っている。心身の変化や緊急時には24時間、医師の相談や対応ができる体制が組まれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の日頃の状態をしっかりと把握し、異常時や気づきを看護師に報告、相談体制を整え、異常の早期発見に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は、面会時や看護師、相談員とも連絡を取り、状態の確認や情報を収集している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に看取りの方針の説明、提示させて頂いているが、日々状況が変化していく中で、本人、家族の意向をきちんと確認し、常に、主治医に相談、意見を伺い、本人、家族、職員で話し合いながら、出来るだけ早い段階で本人、家族が望まれる生活を支援し、本人らしい最後を迎えて頂けるよう努力している。</p>	<p>週末期のあり方については、入居時に指針により説明し同意を得ている。これまでの看取りの事例はないが、インスリン、胃ろう、医療ニーズの高い方等の受け入れ支援に向けても取り組まれている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故発生時の対応などの研修を定期的に取り入れている。マニュアルも事業所に掲示してある。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署の協力を頂き、火災訓練を地域を含めて実施した。又、現在は地域との協定書を作成している。</p>	<p>水害対策や消防訓練を運営推進会議にて検討し、地域との協力体制について協定書を作成している。又、地域の防災避難訓練に参加をしたり積極的に地域との交流を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃より、一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬いの気持ちを持って業務にあたっている。職員教育にも努めている。	認知症「認知症実務者研修6名、リーダー研修1名」研修を受けている。日々の生活支援の中で、職員は利用者の人格の尊重やプライバシーに配慮し、自らの言動に注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話のなかで、本人の思いを聞き逃さず、意志を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の様子や状態に合わせて、利用者本位に過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容にてカットして頂いている。日々の洋服選びなども、一緒に選ばせていただき、おしゃれを楽しんで頂くよう配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	美味しく楽しみながら食事をして頂く為に、陶器の食器を使用し、家庭的な雰囲気損なわないようにしたり、献立を伝え、味の感想を話してもらったりしている。又、食事の配膳準備や片付けなど、個々に出来る事を協力し合いながら行っている。	食材、献立は外注に依頼している。中庭で採れた野菜のネギ等をみそ汁の具に使う事もある。見守りや食事介助には必要以上に手伝わず、残存機能の活用を十分に意識し優しく声かけをしながら行っている。食事は栄養バランスがとれ食器も陶器で家庭的な雰囲気に配慮されている。職員との会話を楽しむ様子が見られた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日、全利用者の食事、水分量を記録し、健康状態への影響がないよう摂取状況の把握に努め、摂取量の確保が困難な時は、嗜好を聞いたり、細目に摂取して頂くなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施し、チェック項目として記録、確認し徹底させている。口腔ケアの大切さを学ぶ勉強会も実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	援助させて頂いてる方は、すべて日中トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを探り、自尊心を傷付けないように、スムーズなトイレ誘導や声掛けを行わない、気持ちよい排泄習慣を維持してもらえるよう努力している。	全ての利用者に日中はトイレでの排泄を基本とし、利用者、個々の排泄パターンを排泄表に記録し把握している。トイレへの誘導も優しく声かけを行い配慮し自立に向けた支援を行っている。オムツ使用になった利用者へは職員が声かけ等を行い日中はトイレで排泄する事でリハビリパンツになったケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録により全利用者の排便状況を把握に努めている。個々の排便習慣に応じ下剤の調整、水分量や適度な運動などで便秘を予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望や、今までの生活習慣をもとに、援助させていただいている。その都度、声を掛けさせていただき、本人の意思を確認し、気持ちよく入って頂くよう心掛けている。	日曜日以外は、毎日入浴している。利用者の1日のリズムに合わせて、温度も替え、習慣や頻度を聞き取りできる限り希望に沿えるように心掛けている。浴室には暖房機器を設備しており1対1の同性での介助を基本としている。季節のゆず湯やしょうぶ湯等、入浴を楽しめる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間、安眠できるように、日中 の戸外への散歩や体操などを取 り入れ、適度な昼寝や休息を促 し、メリハリのある生活が過 ごせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	薬剤師による薬の勉強会を実 施し、知識を養っている。個々 に内服されている薬の効能書を カルテに保管しており、いつ でもすぐに確認できるように している。服薬援助は複数の職 員が確認し、予薬者は名前、 日付、時間を声に出して伝え 内服してもらうよう心掛けて いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	外出やお菓子づくりなど、月 1回のレクリエーション日を 決め、当日のみならず、計画 や準備にも参加してもらい、 楽しみや役割を持って頂く。 日常的には普段の生活の中で、 掃除、洗濯、食事など出来る 事を一緒にして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	本人や家族との会話の中から 希望が聞けたら、可能な限り 実施に向け検討している。個 別のケアとして家族に相談、 協力もいただいている。地域 の夏祭りには、地域の方の協 力もあり、殆どの方が参加 され喜ばれました。	朝の散歩を日課に、馴染みの 美容院への外出支援や地域へ の夏まつりの参加、日常的に 近隣へ買い物に出かけたり、 季節行事には花見を楽しんだり 、個別の外出にも対応して いる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使える ように支援している。	散歩のついでに近隣のスーパー に行く機会も多く、ご自分で お金を出して頂き、買い物 ができる喜びや自信を感じ て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者の希望に応じて施設の電話を使っている。届いた手紙を本人にお渡しし、希望されれば読んで差し上げることもある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>中庭を囲む両ユニットのリビングのカーテンはロールアップ式で日差しを遮断以外は全開にして、花壇の野菜や花やその日の天候がしっかりと見渡せるよう、季節や時を感じて頂いています。各ユニットに温湿度計を設置し、室温調整に配慮しております。</p>	<p>平屋作りでバリアフリーの建築である。中庭を囲み集う、リビングは広く食堂、台所が一体化しており、調理をしながら利用者との会話や状況の把握ができ、リビングに食事作りの匂いが漂い家庭的な雰囲気や生活感が見られる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室に戻られたり、比較的リビングが広めなので、少し離れた場所で過ごされるなど本人の意思を確認し対応している。気の合う利用者同士が楽しく談話できるように座席にも配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の馴染みの家具を持参して頂いたり、ベッドが使いなれない方には畳の空間としたり、お孫さんの写真や思い出の品などを飾り落ち着いた部屋となるよう工夫しています。</p>	<p>ベッド、エアコン、カーテン、照明の設置以外は、皆それぞれに、慣れ親しんだ布団や家具、家族写真を持ち込みその人らしい居室になっている。窓からは緑豊かな畑や田園風景が眺められる。掃除も行き届き清潔に管理されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各ユニットに日課表を張り出し、確認、行動しやすいように配慮している。又、広めのリビングで家事などの作業を安全にして頂くように配慮しており、利用者同士が積極的に行ってくださる。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム樹

作成日 平成24年12月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅱ19	家族様との意見交換や、思いなどを交わす機会が少ない。	利用者様、家族様を含めての交流の場を持つ。	お食事会の実施	9月頃
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。